

鬼隠し

※BGM等完成音源とは微妙に異なる部分があります

設定

◆狗杖（くじょう）ヒーロー

大昔、まるっこい犬の木像に封印され、

神社の本堂にご神体として封印されていた鬼（邪神）。

娯楽感覚で人を食ったり災害を起こしていたが、そのうちありがたい神主に負けた。

幼く無鉄砲だったヒロインが探検ごっこをしていたときに発見し、

しばらく内緒の宝物として、裏手の森に隠し遊んでいた。

ある日、ヒロイン（幼）が取り落とした時にヒビが入り、封印が綻ぶ。

優しいふりをしてヒロインをかどわかすが、その本性は腹黒く、自分を捨てて戻ってこなかったヒロインを恨んでもいる。

ヒロインが泣いても叫んでも自分がしたいことはする。

◆ヒロイン（リスナー）

幼いころ、狗杖の封じられている木像を神社から盗んだ。

大きくなった今、後ろめたい部分はすっかり忘れて、

「小さいころ、どこかで見つけたかわいい犬の木像が秘密の友達だった」

という記憶にすり替わっている。

犬の木像を落としてしまった日、なんとなく怖くなって逃げ、

その後二度と犬の像のもとには戻らなかった。

1 トラック① 昔々あるところに

2 ヒロインに取り残された鬼の一人語り。
3 ほの暗い空気で
4
5

6 SE：不穏な鈴の音

7
8 狗条「立ち去る童の小さな背中を、暗闇の中で思い出す。
9 久遠の呪縛に捕らわれた俺の孤独を、
10 慰めくれたあの光。
11 ——今日も、アレは俺に会いにこなかった」
12

13 狗条「どこかで迷子になっているのだろうか。
14 ケガをして泣いてはいないだろうか。
15 それとも——。
16 もう、俺に飽きたのか」
17

18 狗条「会いに来い、
19 はやく俺に会いに来い。
20 さもなくば——」
21

22 SE：不穏な鈴の音

23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35

トラック② 再会

夜中、インターホンが鳴ったのでヒロインが出ると、
柔和な口調の青年が「お礼をしに来たので扉を開けてください」
とお願ひしてくる。

ヒロインが扉を開けて話を聞くと、
昔、悪い奴ら捕まっていたところを助けてもらったから、お礼が
したいらしい。

狗杖は言葉巧みにヒロインを誘い、次の夜に迎えに来ると約束す
る。

（この段階ではヒロインを誘惑する気でいっばいなので、ずっと
柔和な雰囲気です）

【3 通話越し】

モブ友「——鈴の音が聞こえる？」

猫にでも付きまとわれてるのか？」

【ヒロイン「そういう音じゃなくて……」】

モブ友「耳鳴りかなんかじゃない？」

病院、ついてってやろうか？」

SE：不穏な鈴の音

【ヒロイン「あ、ほらまた。今も聞こえた」】

モブ友「今？」

いや、鈴の音なんて聞こえないけど……」

SE:インターホン

【ヒロイン「誰か来た」】



1
2 モブ友「は？ 誰かきたって……
3 呼び鈴なんてなっていないだろ？
4 あ、おい……！」

5
6 SE：通話オフ
7 SE：ヒロインの足音
8 SE：応答ボタンポチ

9
10 ※インターホン越しに、ちよつとざらついた感じの音でお願いしま
11 す

12
13 【1】
14 狗杖「こんばんは、夜分遅くにすみません。
15 先日お世話になりました、狗杖（くじょう）と申します。
16 心ばかりのお礼をしに参りました、
17 扉を開けていただけませんかでしょうか」

18
19 【ヒロイン「覚えがない」】
20
21 狗杖「……そうですね、先日といっても、
22 あなたにとつては随分と昔のことかもしれませぬ。
23 覚えていませんか？
24 あなたがまだほんの小さな童（わらべ）だったころ……
25 ほら、夏休みに…近所の神社の裏手で、
26 小さな犬の木像と、よく遊んでいたでしょうか？
27 ワンワだなんて呼んで、
28 毎日可愛がってくれたじゃないですか」

29
30 【1】
31 狗杖「紅葉のように小さな手で
32 僕を何度も撫でてくれたでしょう。
33 小さなあなたが、抱えられるくらいの大きさの、
34 そうですね…柴犬に近い形の像でした。
35 一緒に草むらでかくれんぼをしたり、
36 ごっこ遊びで家族になったり……」



1
2 狗杖「楽しかったあの日を、思い出してはくれませんか？」
3 といっても僕はあのころ、
4 少しも動くことはできませんでしたから、
5 あなたの一人遊びではありませんが……」

6
7 狗杖「苦々しく」あんな、小さくみじめな犬の姿でも、
8 お嬢さんのふくふくの手が、
9 僕の胸元を撫でてくれる時だけは、
10 自分が木像なことが少しだけ嬉しかったものです」
11

12 【ヒロイン、思い出す】
13

14 【1】
15 狗杖「喜んで」思い出していただけましたか。
16

17 そう、あのワンワです。
18 あなたが寿命を迎える前に、ここが分かってよかった。
19 僕はずっと、あなたに恩返しがしたいと思い続けていたんで
20 す。

21 あなたが僕の元を去ったあとも、ずっと、ズーっと。
22 決して悪いことはしませんから、この鉄の扉をあけてくださ
23 い」

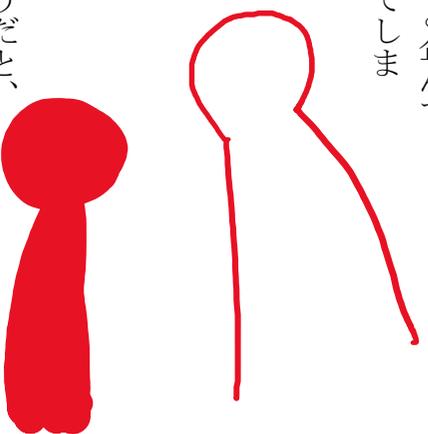
24 【「今」悪いことをしないで、今後は悪いことをしようと企んで
25 いる狗杖。ヒロインは狗杖の言霊に逆らえず、ドアを開けてしま
26 う】
27

28 ※インターホン声おわり

29 SE:足音

30 SE:ドアガチャ

31
32
33 【狗杖、性的に食べごろなヒロインを見て、誑かしやすそうだと、
34 内心でほくそえむ】
35
36



1 【9】

2 狗杖「ああ……いい子だ。

3 ありがとう。

4 僕を信じて、扉を開けてくれて。

5 しかし、これは……驚いたな。

6 あの時はほんの小さなお嬢さんだったのに、
7 すっかり大きくなって。

8 人の子は本当に、成長がはやい」

9
10
11 【ヒロイン】「どうして木像が人間になってるの？」

12
13 狗杖「ん？

14 だってあんなちっぽけな木像の状態では、

15 あなたをどこにも連れて行ってあげられないでしょう」

16
17 【1 顔を至近距離まで寄せる】

18 狗杖「どうです？

19 木彫りの犬なんかより、こちらの姿の方が、

20 ずっと良いでしょう？」

21
22 【ヒロイン、照れて目を背ける】

23
24 【1 少し離れて、ご機嫌に】

25 狗杖「ふふ、そんなに頬を赤くして……

26 お気に召したようで、なによりです。

27 積もる話もありますし、

28 屋敷に遊びに来てください。

29 今日では、少し急すぎますか？

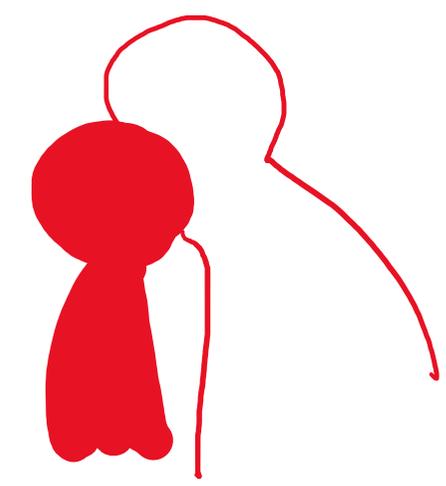
30 そうだな……うん、では明日がいい。

31 今のあなたにふさわしい準備をしておきます」

32
33 【ヒロインはためらうが、戸惑いで揺れた精神に狗杖が干渉する】

34
35 SE：不穏な鈴の音

36



【3】

1 狗杖「明日、また同じ時間にお迎えに上がります。
2 あなたはそれまでに、しっかりと身を清め、
3 床（どこ）に入って待っていてください。
4 香りの強いものはつけないように。
5 そして、今日と同じように、
6 呼び鈴が鳴ったら僕を迎え入れるんだ」
7
8
9

10 ※このセリフ、両耳から声が重なって聞こえるように効果かけてく
11 ださい
12
13
14

【ヒロイン、了承】

【1】

15
16 狗杖【嬉しそうに】やった！
17
18

【3 耳元で囁く】

19 狗杖「約束ですよ。
20 明日は絶対に、あなたの手で、
21 この扉を開けてくださいね」
22
23

SE：不穏な鈴の音

【6】

24
25
26 狗杖「必ず……
27 必ずあなたを迎えに来ますから……」
28
29

SE：ドア閉め

30
31 SE：ドアの向こうで遠ざかっていく足音
32

トラック③ 宴席

1 次の晩。
2 インターホンが鳴り、ヒーローが来たのでこのこ応対するヒロ
3 イン。
4 迎えに来たと言われた瞬間、一般家屋から見覚えのない日本家屋
5 に移動する。
6 驚くヒロインをヒーローが案内した先には、
7 畳の上に豪華な和食とお酒が用意されている広間だった。
8 話は食べながらで…と言われたので、素直に食べるヒロイン（黄
9 泉竈食ひ）
10 ヒロインが自分を愛してくれたことで力が増し、
11 そのおかげで、こうして神性存在になれたと述べる（大嘘）
12 ここは自分の領域なので、ヒロインの願いはなんでも叶えられる
13 よー。
14 美味しいご飯！気持ちよく酔えるお酒！
15 あと気持ちいいことも好きですよね！と言う流れでセックス。
16 （引き続き誘惑のターンなので、柔和な感じでお願います。こ
17 の辺りから勝ちを確認しており、だんだん上から視線も隠さなくな
18 って来ます）

22 SE:インターホン

23 SE:ヒロインの足音（トラック1より微妙にゆっくり）

24 SE:ドアガチャ

26 【1 向かい合って立つ】

27 狗杖「こんばんは。」

28 【親しげに】約束通り、素直に扉を開けてくれたね」

30 【1 顔を寄せて】

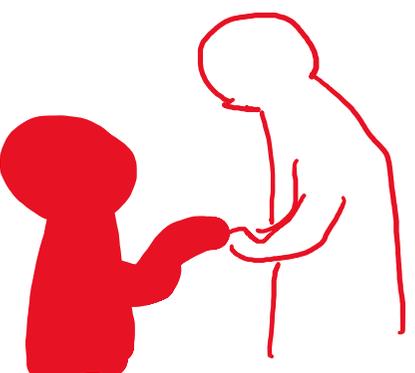
31 狗杖「さあ、おいで。」

32 僕の手を取って、目をつむるんだ。

33 僕が良いと言うまで、

34 目を開けてはいけないよ」

35



1 【ヒロイン、うなづく】

2
3 SE:衣擦れ

4
5 【1】

6 狗杖「満足げに」良い子だ」

7
8 SE:不穏な鈴の音

9
10 【ヒロインの家から狗杖の持つ領域（和風庭園）へ】

11
12 SE:微かな風の音

13 SE:小鳥の鳴き声

14 SE:ヒロインのみじろぎで、足元の玉砂利が鳴る

15
16 【夜だったのに朝になり、突如場所が変わったことに、驚き、慌て
17 るヒロイン】

18
19 狗杖「しい……大丈夫、落ち着いて。」

20 【見回し】ここは、僕の領域なんだ。

21 君の知っているどこでもないし、
22 いつでもない。

23 けど、君が気に入るように整えておいた。

24 色とりどりの花と、さえずる小鳥。

25 君はこういうのが好きだろう？

26 さあ、こっちへ。きつと屋敷も気に入るから。

27 大丈夫、裸足で歩いても痛くはないから」

28
29 SE:玉砂利を歩いて屋敷へ

30 SE:玄関扉（引き戸）がらり

31 SE:小走りで近づいてくる足音

32
33
34 【9 ヒロインの隣（7）に向かって】

35 小間使い「少し怯えて」お館様！

36 お帰りなさいませ……！」



1
2
3 【7 ヒロインの隣に立つ位置 9 向かって】
4 狗杖【冷ややかに】留守中、変わりは？」
5

6 【9 7に向かって】

7 小間使い「ごいません」
8

9 狗杖「支度は？」
10

11 小間使い「ご命令通り、すべて整ってございます」
12

13 【ヒロイン、小間使いが犬の頭をしているので驚く】
14

15 【7 ヒロインの方を向く】

16 狗杖【楽しみに】ふふ、驚いたかい？
17

17 君が気にいるかと思って、

18 小間使いたちは犬の姿にしてあるんだ」
19

20 【1 ヒロインが狗杖の方を向いたため、向き合う】

21 狗杖「君は童のころから、犬が好きだっただろう？
22

22 木像の僕を、あんなに可愛がってくれたじゃないか。
23

23 ——もしかして、気に入らなかったかな？
24

24 なら今の奴らはつぶして、新しく作り直そうか。
25

25 どんな姿の小間使いなら、
26

26 君は気に入ってくれるだろうね？」
27

28 小間使い「(恐怖で息を飲む)」
29

30 【ヒロイン、不穏さを感じ慌てて首を横に振る】
31

32 SE：衣擦れ
33
34
35

1 【1】
2 狗杖「このままでいいのかい？」
3 本当に？

4 【つまらなそうに】そうか……
5 わかった、君がそう言うのなら。」
6

7 【1 9に向かつて】

8 狗杖「もういい、俺が呼ぶまで消えている」
9

10 【9】

11 小間使い【怯え切って】は、はい！
12 失礼いたします！」
13

14 SE:小間使いが逃げるように歩き去る音
15

16 【1】

17 狗杖「すまなかったね。」

18 恩人を玄関で立たせたまま、
19 長々と……
20 さあ、上がって」
21

22 SE:狗杖が草履を脱いで板の廊下にかかる
23

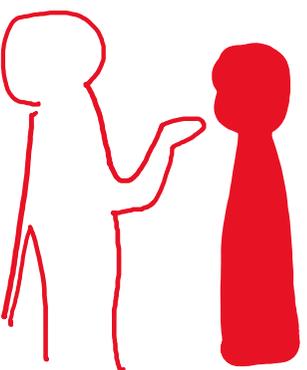
24 SE:二人で廊下を歩き出す

25 【ヒロイン「私が、恩人って？」】
26

27
28
29 【3 並んで歩く距離 前を見て】
30

31 狗杖「ああ、そうだよ。」

32 僕にとって、君は本当に特別な存在なんだ。
33 恩人という言葉では表しきれない。
34 なにせ君は、卑しい霊能力者の奸計にかかり、
35 消滅するのを待つばかりだった僕を、
36 あそこから救い出してくれたんだから」



1 【ヒロイン（そうだっけ）】

2

3 【3 ヒロインを見る】

4 狗杖「覚えていない？」

5

6 それとも、自覚がないのか……。

7

8 君はあの頃、幼さにふさわしい

9

10 無鉄砲さを持っていた」

11

12 【1 ヒロインも狗杖を見る】

13 狗杖「手入れもされていないような、

14

15 荒れ果てた神社のお堂に入ってきて、

16

17 僕が封じられた犬の像を見つけた途端、

18

19 キラキラと目を輝かせてね……

20

21 どうするつもりかと思ったら、

22

23 そのまま持つていくんだから！

24

25 【愉快そうに】僕も随分長く生きたけれど、

26

27 その中でも指折りの罰当たりだ」

28

29 【記憶にない罰当たり行為に、血の気が引くヒロイン】

30

31 狗杖「そんなに、怖がらなくていい。

32

33 君が恐れ知らずの子供だったおかげで、

34

35 僕はこうして消滅することなく、

36

全部、君のおかげだよ」

37

38 【3 正面を見て】

39 狗杖【含みを持たせて】——だから、君は僕の恩人なんだよ」

40

41 【食事の間にたどり着く】

42

43 SE:足音終わり

44

45 【7】

46 狗杖「ああ——この部屋だ。

47

恩返しといえ、まずは御馳走だろう？」

SE:ふすまガラッ

1
2
3
4 狗杖「たくさん用意したから、好きなものから手をつけるといい。
5 カニは好き？ タイの刺身は？ 松茸もある。
6 今の時代の人の子は、
7 牛や豚の肉を好んで食べるのだったけ？
8 ふふ……僕も動物の肉は大好きだ。
9 サクラも、ボタンも、モミジも好きだけれど、
10 一番好きなのは、そうだな……
11 人間の肉——なんてね♡」
12

13 【ヒロイン、目の前のごちそうがキラキラなので軽い冗談として受
14 け流す】
15

16 狗杖「さあ、座って。

17 座敷は慣れない？

18 【軽く笑って】「正座なんてしなくていいんだ。
19 楽に座って、そう……」
20

21 SE:ヒロイン座布団に着座

22 SE:狗杖右サイドに着座

23
24 SE:背後で小間使いが静かにふすまを閉める
25
26

27 【7 ヒロインの隣】

28 狗杖「行儀なんか気にしなくていい。

29 食べたいものを、

30 好きな順番で、

31 動物みたいに食べればいいんだ。

32 どれが食べたい？

33 僕が取ってあげる。

34 そうだな……君がさつきからじっと見てる……

35 これかな？」
36



1 SE:食器かちやかちや

2
3 【1】
4 狗杖「口を開けてごらん。

5 もっと大きく。
6 そう、あーん」

7
8 【ヒロインが速攻で黄泉竈食ひ（罌）にハマってご満悦】

9
10 狗杖「ふふ、美味しいかい？

11 ねえ、これも飲んでよ。」

12
13 SE:漆器製のお銚子（酒用の急須みたいなやつ）で盃に酒を注ぐ

14
15 【1】

16 狗杖「こちら側で作られた、特別なお酒だよ。

17 気持ちよく酔えるし、どんなに飲んでも悪酔いしない。

18 甘くて、いい匂いだろう？

19 においだけで、酔いそうだろうか？」

20
21 【7 耳元で】

22 狗杖「そう、そのまま——」

23
24
25 SE:不穏な鈴の音

26
27 【7 言い聞かせるように】

28 狗杖「口に含んで——飲みこむんだ」

29
30 【ヒロイン、言われるままの酒を飲み込む。黄泉竈食ひによってヒ
31 ロインが完全に捕らわれ、ほの暗い愉悦に浸る狗杖】

32
33 【7 少し離れて】

34 狗杖「ね？ 美味しいだろう？

35 ああ、ほら。

36 そんなに急いで飲むから、こぼしてる」

1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36

【1】
狗杖「こつちを向いて。
舐めてあげる。
れる……ちゅ……
あぁ……うん。
やっぱり、今年の酒はいい出来だ」

狗杖「頭が、フワフワしてきた？
おいで、奥の部屋に床を延べてある。
いいんだよ、食事はまたあとで。
冷めもしないし、いたみもしない。
君にとって最高の状態で、
いつまでもここにあるから。
さぁ、ほら。
立つて」

SE: 立ち上がる
SE: よろけて倒れる

【よろけたヒロインを抱きとめる狗杖】

【3】
狗杖「おっと……上手く歩けない？
いいよ。
僕が抱いて連れて行ってあげる。
ほら、首に腕を回して。
そう、いい子だ。
ふふ……本当に、童のようだね。
かわいい、かわいい。」

SE: 足音 (豊)
SE: ふすま開閉
SE: 足音 (豊)



1 SE:ヒロイン布団にソツ…

2
3 【1】
4 狗杖「寝心地はどうだい？
5 布団に吸い込まれるようだろう。

6 この、すべらかな肌触り——。
7 ああ、服を着ていては分からないね。
8 ほら、服を脱がせてあげよう」
9

10 【ヒロイン、やや抵抗】

11
12 狗杖「しい……大丈夫、恥ずかしくない。
13 この屋敷では、君を縛るものは何もないんだ。
14 人の世の息苦しい常識なんて、
15 すべて忘れてしまえばいい。
16 暑いだろう？ 酒で体が火照ってる。」
17

18 SE:ヒロインの服脱がしゴソゴソ

19
20 【3 耳元で】

21 狗杖「ほら、上手に脱げた。
22 ふふ、冷たい空気が気持ちいいね。
23 まだ、少し体が硬いかな」
24

25 【1 少し離れて】

26 狗杖「ほぐしてあげよう。
27 ほら、うつぶせになって」
28

29 SE:うそうそ

30
31 【うつぶせになったヒロインの体を優しくマッサージする狗杖】
32
33
34
35
36



1 【4 背後から】

2 狗杖「肩と……背中に……腰……」

3 ふふ……声が出るくらい、気持ちいい？

4 痛くないかい？

5 人の子の体は、驚くほどにもろいから……

6 壊れてしまわないか、心配なんだ。

7 君は僕の大切な人だからね。

8 ああ……君が僕の手の中で、

9 こんなにも無防備に身をゆだねてる。

10 それがどれほど嬉しいか……」

11

12 【4↓3】

13 狗杖【深く息を吸って】ああ……いい香りだ。

14 酔って、ほぐれて、ぐずぐずになった君の香りは、

15 極上の酒よりも僕を酔わせてくれる。

16 この、薄くて柔らかい皮膚の下にある、

17 君の血と肉……その味を思うだけで、

18 僕は——【いい終わりながらヒロインの耳を食む】

19

20 【30秒程度、ゆーったり耳舐め】

21

22 【3 舐めたり噛んだりしつつ】

23 狗杖「気持ちいい？

24 もっとこうしてほしい？

25 それとも……もっと気持ちよくなりたい？」

26

27 S E :: 不穏な鈴の音

28

29 【4】

30 狗杖「ほら、こっちを向いて、僕を見て」

31

32 S E :: 衣擦れ

33

34 【1】

35 狗杖「言っつてごらん。

36 僕にどうしてほしいのか」

1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19

【ヒロイン、「気持ちよくなりたい」と答えてしまう】

SE：不穏な鈴の音

狗杖「いい子だ。

たくさん気持ちよくしてあげようね。

ほかならぬ、君が望んだことなのだから」



1 トラック④ 寝所で

2 すっかり気持ちよくてふにやふにやになっているヒロインを、なし
3 くずしてきに頂く狗杖。

4
5
6 【トラック2から引き続き、ヒロインに愛撫を続けている狗杖。仰
7 向けに寝転がっているヒロインの全身にキスしている】

8
9 【1 やや下から】

10 狗杖「ちゅ……ちゅ……ふふ……

11 かわいらしいな……

12 僕の唇が触れるたびに、

13 震えて、悶えて……」

14
15 【7 耳元で】

16 狗杖「次はどうされたい？

17 僕にどこを触ってほしい？

18 人の子は、乳房をなぶられるのを好むのだけ？

19 こんなふう……」

20
21 SE：ヒロインがびくつとなる

22
23 【人を犯すのはこれが初めてなので探り探りだが、面白いように反
24 応を返すヒロインに、楽しくなる狗杖。】

25
26 【1】

27 狗杖「はは……そうか、そうか。

28 跳ねるほどに気持ちがいいか。

29 僕に触れられるのを待ちわびていた？

30 ああ……本当に、柔らかいな。

31 少しでも力を込めると、潰してしまいそうだ」

32
33 【1】

34 狗杖「手の中で、やわやわと形を変えて……

35 【思わずと言った感じで】これは、いいな……」

1
2 【1 やや下から】
3 狗杖「この、胸の先の……」

4 硬くどがった乳首を舐められると、
5 ことさらに気持ちが良いんだろう？」
6

7 【1 胸を舐めながら】

8 狗杖「ちゅ……れる……ああ……舌で、触れると……」

9 ちゅ、ちゅ……ふふ……

10 そんなふうには、だらしなく声を上げて……

11 ちゅ、じゅる……

12 はは、腰が揺れてるのは、気持ちいいからかな。

13 人の子というのは、本当に……

14 哀れなほどに快楽に弱いな【胸舐め終了】
15

16 【1】

17 狗杖「ああ……そんなに切なそうな顔をして。

18 物足りないかい？

19 反対側も、可愛がって欲しかった？

20 いいとも、存分にかわいがってやる。

21 けれど、もう少し先に進んでからだ。」
22

23 【1】

24 狗杖【高圧的に】脚を、開いて」
25

26 【ヒロイン、したがう】
27

28 【1】

29 狗杖「そう……いい子だ。

30 すっかり濡れて、

31 オスを受け入れる準備ができているね。

32 薄い布切れが濡れて、透けて、張り付いて……

33 何の役にも立っていない」
34
35
36

【1】

1 狗杖「切ってしまうよ。
2 いららないだろう、こんなもの。
3 まるで、ありもしない貞淑の象徴のようだ。
4 奔放な君にはふさわしくない」

SE：ショーツ破く

5 狗杖「ほら、これでいい。
6 君にふさわしい姿になった。
7 けど、まだ少し足りないか……」

SE：軽く触れる水音

8 狗杖「ここを指で觸つてやると、
9 人間のメスは泣いてよがると、
10 色狂いの同胞から聞いている。
11 君もそう？
12 こうやって、指を一本中に入れられるだけで……」

SE：挿入音

13 狗杖「——はは（嘲笑）、
14 本当に、指の一本でこんなに反応するものなのか。
15 では、こんな風にかき回したら？」

【ヒロインの胎内をゆるゆるとかき回す狗杖】

SE：水音（徐々に加速してつて中速くらいで継続してください）

16 狗杖「ふうん……面白いな。
17 指で柔らかな肉壁をくすぐるたびに、
18 愛らしい声で、良く鳴くものだ。
19 聴かせておくれ、その声を、もっと……もっとだ。
20 指を増やすと、さらに良くなるのかい？
21 激しく動かすと、より大きく鳴くのかい？」

1 【1】

2 狗杖「いい声だ……」

3 人を食わずに犯すなど、

4 妙な趣味だと思っていたが、

5 なかなか、どうして……昂らせてくれる。

6 ……中が狭くなってきた。

7 そろそろ、気をやりそうなんだね。

8 こつちを向いて。

9 君が僕に触れられて果てるところを、

10 ちゃんと見せておくれ」

11
12 【ヒロイン、羞恥で顔を背けたまま絶頂】

13
14 SE:びくつと跳ねる音

15 SE:手マン一時停止

16
17 【3 (ヒロインが顔を背けたため)】

18 狗杖「残念そうに」ああ……

19 顔をそむけてしまったね。

20 どうして、顔を見せてくれなかったんだい？

21 こつちを見てと言っただろう？

22 聞こえなかった？

23 悪い子だなあ……僕の命令に従わないなんて」

24
25 SE:手マン再開 (中速)

26
27 【果てたばかりでぐったりしていると、さらに責められて慌て
28 るヒロイン。だが狗杖は取り合わない】

29
30 SE:暴れるヒロイン

31 SE:押さえつける狗杖

32
33 【3 耳元で舐めるように】

34 狗杖「しい、しい……抵抗するな。

35 もう一度だ。

36 僕が見たいと言っただのに、従わずに隠したのが悪い」

1 【3 耳元で】

2 狗杖「ああ……少し、コツがつかめてきたぞ、
3 このザラザラしたところが良いんだろう？
4 はは、声が大きくなった。
5 気持ちいいかい？
6 それじゃあ、今度こそ気をやる時の顔を見せておくれ」
7

8 【1 至近距离で】

9 狗杖「顔を背けるんじゃない。
10 気をやりそうなんだろう？
11 ほら、こつちを見るんだ。
12 目をそらさずに……そう、そのまま……
13 ほら、イけ、イけ……！」
14

15 SE:びくつと跳ねる音

16 【ヒロイン絶頂】

17 SE:手マン終了

18 【1】

19 狗杖「満足して」ああ、良い顔だ。
20 交尾のことしか考えられなくなった、
21 動物らしい淫らな顔。
22 だが——」
23

24
25
26
27 【快樂が強すぎて何がなんだか分からなくなっているヒロインを休
28 ませず、次の段階に進む狗杖】
29

30 【7 至近距离で】

31 狗杖「焦れたように」まだ足りない。
32 まだまだ、もっと、君は深いところまで墮ちられる。
33 僕が手伝ってあげる。
34 戻ってこれないところまで、
35 深く、深く墮としてあげるから」
36

1 SE: 狗杖が帯を解く

2
3 【ヒロイン、なにやらヤバイ空気を察して逃げようとするが、抑え
4 込まれる】

5
6 【6 至近距离】

7 狗杖「おっと……今更逃げようとするのかい？」

8 無駄だよ、君は僕から逃げられない。

9 逃げる必要なんてないだろう？

10 こんなに気持ちがいいんだから。

11 もっと気持ちよくなれるのだから」

12
13 SE: 不穏な鈴の音

14
15 狗杖「ああ、なるほど……。

16 後ろからしてほしいんだね？

17 いいとも。君がそれを望むのなら。

18 そのまま布団に伏せているといい。

19 この方が、深くまで入るから……

20 ああ……はっ……」

21
22 【寝バック、挿入】

23
24 SE: 挿入音

25
26 【5】

27 狗杖「ああ…思っていたより、狭いな。

28 濡れた肉壁が、思い切り締め付けてきて、これは……。

29 わざとやってるのかな、それとも本能で勝手に？

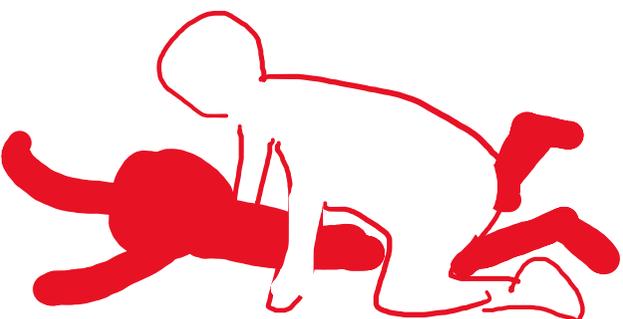
30 ははっ、どちらにせよ、ひどい淫乱だ。

31 同族でもない相手に、こんな媚びるような声で鳴いて」

32
33 SE: プストーン、ゆっくりから中速へ

34
35 【吐息のみ、秒数お任せします。よきタイミングで次のセリフへ】

36



1 【5】

2 狗杖「こうやって、奥を突かれるのが好き？

3 こんな風に……激しく……！ 乱暴に？

4 ああ、いいとも……ッ

5 人間じゃ……届かないようなところまで……！

6 僕が……！

7 思いつきり、突いてあげる……！

8 はあ、はあ……ああ……ッ」

10 SE:ピストン加速

12 狗杖「一番奥の、子宮の入り口まで……

13 ははっ、いい声だ。

14 もっと、僕のために鳴いておくれ。

15 もっと、もっと……！

16 はあ、はあ……ああ……はあ……！」

18 SE:ピストン加速

20 【吐息のみしばし 荒々しい感じで】

22 狗杖「イきそう？

23 もう耐えられない？

24 ああ、いいとも。

25 好きだけイくといい。

26 ほら、イけよ。

27 ケダモノのように後ろから犯されて、

28 子宮をえぐられながらイキ狂え……！

29 ほらいけ、イけ、イけ……ッ 【射精】

31 【ヒロインが本イキすると同時に果てる狗杖】

33 SE:ピストン終了

1 【軽く息を整えながら、挿入したまま「面白い遊びをみつけた」よ
2 うな気分で】

3
4 【4 至近距离で】

5 狗杖「ああ……よかった。

6 人間などを犯して楽しめるか不安だったけど、
7 まさか同時に果てるなんて」

8
9 【4 耳にキスしながら】

10 狗杖「よしよし……少し、無理をさせたかな。

11 叫び疲れてしまったね。
12 水を飲ませてあげよう」

13
14 SE: 抜く水音

15 SE: 食器かちや

16
17 【1】

18 狗杖「ほら、口を開けて。

19 水をお飲み。よく冷えてるから。
20 あわてないで、ゆっくりでいい。

21 上手に飲めたね……いい子だ。

22 さあ、おいで。

23 今日はいろいろあって疲れただろう。

24 ゆっくりと休むといい。」

25
26 SE: 狗杖の方も布団に横たわる

27
28 【ヒロインに腕枕する狗杖】

29
30 【3 耳元】

31 狗杖「ぐっすりおやすみ。

32 僕の愛しい人【耳にキス】

33

トラック⑤ 温泉で

朝チュン。

一夜を過ごしてしまい、今現世では行方不明では！？と慌てるヒロインに、ヒーローは「この時間は現世とは違うから、向こうでは一分に満たない」と説明。

（事実だが、ヒーローの気次第で時間の速度は変わるため、

ヒロインが安心した瞬間から秒速一時間）

いつでも好きな時に帰してあげるから、しばらくはここで恩返しをさせてくれと言う。

昨晚の色々を清めるため、館の中の露天風呂へ。

温泉えっち。

SE:小鳥の鳴き声

SE:布団ゴソゴソ

SE:ぱつと跳ね起きる

【遅刻する！ と飛び起きるヒロイン】

【6 飛び起きたヒロインを横になったまま見上げる】

狗杖【あくび】ふわ……ああ

ああ、おはよう。

何をそんなに慌ててるんだい？」

【ヒロイン「今、何時……!?!」】

【1】

狗杖「時間……? さて、そうだなあ……」

朝でもいいし、昼でもいいが……

一晩明けて昼……というのが、

人の子としてはしつくりくるかな。

うん、そうだな。昼にしよう。

【言いながら起き上がる】僕がそう決めたから、

今は昼だ」



SE:起き上がる

【ヒロイン、誰にも言わず一晩も異次元にいたことに慌てる】

【1】

狗杖「ああ……現世（うつしよ）の理を気にしているのか。

心配しなくても、

こちらとあちらでは、理（ことわり）が全く違う。

夢を見ているようなものだと思えばいい。

ここで十年過ごしたって、君は歳をとらないし、

現世で誰かが困るようなこともない」

【不安げなヒロイン】

【1】

狗杖「それほど不安なら、

今すぐ帰してあげることまでできるけど……

せめて、自慢の露天風呂を堪能してから帰ってほしいな。

現世では決して見られない美しい風景を見ながら、

湯船で最高の酒を飲んで――

現世に帰ってあくせくするのは、

それからでも遅くはない。

そうだろうか？」

【露天風呂に心が動くヒロイン】

狗杖「ふふ……本当に、君は欲に素直だな。

さあ、おいで。

昨日は少し激しくしたから、歩くのもつらいだろう？

半分は僕のせいだ。

湯殿まで僕が抱いて行こう」

SE:抱き上げる

SE:畳足音

SE:ふすま開ける

SE:板廊下足音



1
2 【居心地が悪そうなヒロインを不思議に思う狗杖】

3
4 【7 ヒロインを横抱きにしながら】

5 狗杖「どうかした？」

6 妙に落ち着かないようだけど……」

7
8 【ヒロイン「大丈夫？ 重くない？」】

9
10 狗杖「重い？ 君が？」

11 あっはははは！

12 君に合わせて人の姿に化けてはいるけど、

13 僕はひ弱な人間よりずっと力のある存在だ。

14 昔はその辺を歩いてる牛とかを、

15 片手で投げて遊んだものだよ。

16 それを見た牛飼いの悲鳴なんか、

17 すごく面白くてね」

18
19 【ヒロイン「じゃあ、本来の姿って……？」】

20
21 狗杖「ん？ 人に化ける前の姿が気になる？

22 やめておいた方がいい。

23 人の子の目には、

24 ひどく恐ろしく見えるようだから……。

25 君を怖がらせたくないんだ。

26 【切なげに】というより……そうだな……

27 僕を恐れ、嫌悪するあの目で、君に見られたくないんだ。

28 人の子はあまりにも脆弱だから、

29 恐ろしさに耐えられない。

30 きっと君だって僕の本当の姿を見れば……」

31
32 SE:足音ストップ

33
34 【7】

35 狗杖「——ああ、着いたよ。ここだ」

36

1 SS:引き戸カラリ

2

3 SS:石畳に素足の足音。へた。へた

4 ※露店風呂なので音の反響いららないです

5

6 【7】

7 狗杖「得意げ」どうだい？ 見事なものだろう。

8 満開の桜と、照紅葉（てりもみじ）。

9 お望みなら、雪だつて降らせられる。

10 他にも欲しい景色があれば、一晩で作って見せるよ。

11 この領域で僕にできないことなんて、

12 何もないんだから」

13

14 【ヒロイン「体を洗うから下ろして」】

15

16 狗杖「体を？ 洗う？

17 どうして？

18 今から湯につかるのに、わざわざ洗う必要ないだろう」

19

20 【慌てるヒロインを無視して、ヒロインを抱いたまま歩いて湯船に

21 入っていく狗杖】

22

23 SE:足音

24 SE:ちゅちゅちゅ入湯

25 SE:(こ)から出ていくまでチャプチャプしてて欲しいです

26

27 【7】

28 狗杖「ほうら、気持ちがいいだろう？

29 現世の理を無視したからって、

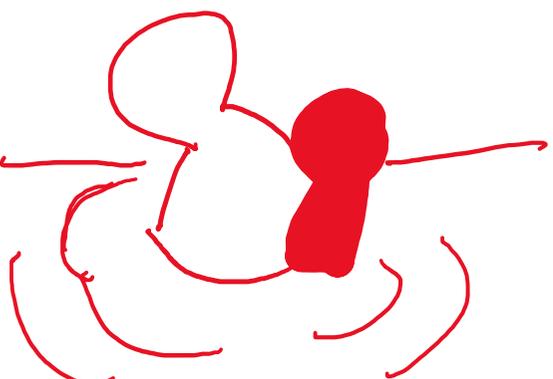
30 ここではだれも君をとがめたりはしないんだ。

31 だから、もっと自由になっておくれ。

32 あのころの、童だった君みたいに。」

33

34



1 【7】
2 狗杖「難しければ、また酒の力を借りようか。
3 ほら、昨日、君が気に入っていた酒だ。
4 温泉で温まって、ちょうどいいぬる爛になってる。
5 大丈夫、ここで酔っても、現世に戻れば酔いは冷めるから。
6 さあ、ほら、飲んで」

7
8 SE：おちよこカチャ
9

10 【甘言に惑わされて、酒を飲み、すぐにぼわっとなるヒロイン】
11

12 【7】

13 狗杖「そう……いい子だ。
14 君はそうやって、
15 欲望に溺れてるときが一番かわいらしい」
16

17 狗杖「人の子の欲というのは、
18 時代を経ても根っこはかわらないな。
19 壮麗な住まいに、美食、美酒……
20 美男美女を侍らせて――
21 まことの美も分からぬくせに、
22 神の領域の幻影に触れようとあがいている」
23

24 狗杖【忌々しげ】矮小な自分を少しでもマシに見せようと、
25 果ては命までもを投げ出して、
26 この「俺」を封じたのだから、
27 人の子のいじましい見栄も大したものだ」
28

29 SE：おちよこを握力で割る
30

31 【ヒロイン、少し怯える】
32
33

1 【1 腕の中のヒロインを見下ろす】
2 狗杖「——ああ、割ってしまった。」

3 まだ少し、力加減がわからなくてね。
4 大丈夫、君に怒っているんじゃない。
5 君だけは特別だ。

6 君の欲望や、
7 だらしなさや、
8 救いようのないすべてが、
9 僕にとっては愛おしいのだからね」
10

11 【ヒロインの唇にかかるくキス2〜3回】
12

13 【1】
14 狗杖「口付けは苦手？」

15 まだ、いらぬ理性が残っているようだ。
16 もう少し酒を飲めば、それもなくなる。
17 さあ、口を開けて。
18 僕が飲ませてあげるから」
19

20 【酒を含み、ヒロインに口移しで飲ませる狗杖。十秒程度デイーブ
21 キス】
22

23 狗杖「ああ、いい顔になった。」

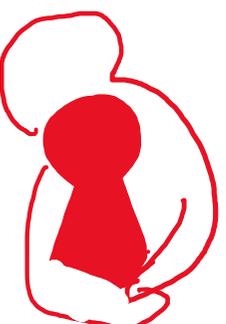
24 ほら、もっと良くしてやろう。
25 後ろを向いて、僕の脚の間に座るといい」
26

27 SE：お湯パシヤパシヤ
28

29 【温泉につかったまま、ヒロインを背後から抱きすくめる狗杖】
30

31 【6 背後から】
32 狗杖「暑いかい？」

33 少し、湯の温度を下げようか。
34 ——ほら、これでちょうどよくなった。
35 こんな風に湯にとろみをつければ、
36 肌滑りがよくなるだろう？」



SE：ローションネチネチ

1
2
3
4 狗杖「君のどろけそうな柔肌に、
5 たつぷりと絡めて、すりこんで、しみこませてやろう。
6 うん？」

7 どうしたんだい？ 震えてる。
8 湯の温度を下げすぎた？

9 それにしては、頬も耳も真っ赤になって……

10 熟れたザクロのようじゃないか。

11 ああ——美味そうだ。

12 少し味わわせておくれ」

13
14 【7 耳舐めつつ】

15 狗杖「ちゅ……じゅる……

16 ふふ……また、その声で鳴くんだな。

17 かわいらしいなあ、ちゅ……本当に、かわいらしい。

18 現世じゃ味わえない快楽を、

19 僕が無限に与えてあげる。

20 二度と帰りたなくなるくらい、

21 深い喜びを与えてあげる。

22 ん……ちゅ……れる……ちゅ…… 【耳舐め終わり】

23
24 【ヒロイン、やや抵抗】

25
26 狗杖【楽しんで】ほら、暴れないで。

27 加減を間違えたら、壊してしまう。

28 昨日より、もっともっとよくしてあげる。

29 君が触れられて喜ぶ場所は、

30 もうちゃんとわかっているから」

31 SE：ローションネチネチ

32
33
34
35
36

1 【6 背後から】

2 狗杖「ほら、ここ——。

3 こうやって、胸をやわやわ揉まれながら、
4 乳首をひっかかれるのがイイんだろう？

5 指の腹で転がして、つまんで、ひっかいて……

6 ずっとこうしててほしいんだろう？

7 下もかわいがってやりたいけれど……

8 人の姿に化けていては手が足りないな。

9 だから——」

10

11 SE：不穏な鈴の音

12

13 狗杖「胸は、自分で可愛がりなさい。

14 僕がするのと同じように、

15 容赦なく、自分で自分を責め立てるんだ。

16 ほら、できるだろう？

17 やるんだ——やれ」

18

19 SE：ローションネチネチ

20

21 狗杖「そう、いい子だ。

22 ああ、これで両手が開いた。

23 君が先ほどから、触れてほしくて震えている場所を、

24 たっぷりと可愛がつてあげられる。

25 ほら、腰を浮かせて。

26 尻をもっと僕の腹に押し付けて。

27 少し体を倒すと……ね？

28 わかるだろう？

29 君があんまりいやらしいから、

30 僕ももう硬くなってる。

31 これが欲しくてたまらないんだろう？

32 早く中をかき回してほしくて、

33 叫び出しそうなんだろう？」

34

35

1 【6】

2 狗杖「嘲笑】っはっはっはっは……！！

3 そんなに腰を押し付けて……

4 ああ、よしよし。

5 ほら、腰をゆすってあげる。

6 まだ中には入れなくても、

7 イイところに当たるだろう？」

8 【温泉の中でスマタしばし】

9
10
11 SE：水音 100MPP くらいでねちねちと

12
13 狗杖「だめだ、腰を逃がすな。

14 快楽から逃げずに……そう、

15 もっと、もっとと、

16 貪欲にねだって見せるんだ。

17 この世ならざる快楽が欲しいだろう？

18 絶頂のその先が見たいだろう？

19 この先がそうだ」

20
21 【ヒロイン、「もういった」と訴えるが狗杖はとりあわない】

22
23 狗杖「まだだ。

24 まだイってない。

25 こんなものは快楽の入り口だ。

26 ほら、手を止めるな。

27 つまんで、しごいて、ひっかいて……そう、そのまま。

28 っはは……ああ、いい具合だ。

29 たっぷりと濡れてきたな。

30 湯のとりみよりも、ずっといやらしいぬめりだ」

31
32 【7→1 首だけヒロインを振り向かせる】

33 狗杖「こつちをむけ、ほら。

34 舌を出して。もっと思い切り。

35 舌を吸いながら入れてやる。

36 一番奥まで、一気に……ん……んう」

1 SE：挿入音

2
3 【ここからキスハメ】

4
5 SE：水音 180BPM くらいで激しく

6 SE：水バシヤバシヤ うるさくなりすぎない程度に

7
8 【1 デイープキスしつつ】

9 狗杖「ふ……ん……ん……」

10 つは……締まる……っ……

11 つはは……いいぞ、いい……！

12 お前は本当に……楽しませてくれる……ッ！

13 んん……そう……自分から腰を振って」

14
15 【キスハメしつつの吐息しばし。よきタイミングで次のセリフへ】

16
17 【7 キスやめて】

18 狗杖「つは……出すぞ……！

19 中に……ほら……

20 たっぷり受け取れ……！ あ……はっ……！ 【射精】

21
22 SE：水音ストップ

23
24 【出した後も、しばらく痙攣してるヒロインをぎゅーっとしている

25 狗杖】

26
27 【6】

28 狗杖「はあ……はあ……はあー【深いため息】。

29 ああ……よしよし、ゆっくり深呼吸して。

30 【楽しそうに】ひどい顔だな。

31 よだれと涙でぐちゃぐちゃだ。

32 気が触れるような快樂だっただろう？

33 降りてこれなくなりそうで、怖かった？」

34

35

36

1 【7】

2 狗杖「少し、疲れさせてしまったかな。

3 寝床に戻ろうか。

4 その疲れが癒えるまでは、

5 ここにいてくれるだろうか？」

6 【ヒロイン、まだ少し抵抗を見せる】

7 狗杖「——ねえ、僕のお嬢さん。

8 あの日、君に置いて行かれたワンワは、

9 君が戻ってくるのを、

10 ずっとずっと待っていたんだよ。

11 だからどうか、お願いだ。

12 少しの間だけでいい。

13 僕が君を待つてる間に育てた気持ちを、

14 僕が用意した極楽で、全部受け取っておくれ」

15 【ヒロイン、まともに考えることを諦める】

16 【6】

17 狗杖「ああ……さすがに、少しのぼせてしまったかな。

18 人の子というのは、脆弱でいけないな。

19 やはり、僕が大切に守ってやらねば……

20 現世で、どこぞのクズに壊されでもしたら大変だ」

21 【狗杖、ヒロインを横抱きにして立ち上がる】

22 【7】

23 狗杖「さあ、上がろうか。

24 冷やし飴でも用意させよう。

25 すごく喉が渴いただろうから、ね……ふふ」

26 SE:お湯から上がる音

27 SE:足音。くた。くた

トラック⑥ 暗転

1 館時間ロ目。
2
3 食って寝てヤつての繰り返しで、帰るタイミングを逸し続けてい
4 たヒロインだが、ふと心底帰りたくなる。
5 狗杖にそろそろ帰りたいと言っても取り合ってもらえないため、
6 脱出を試みるヒロイン。
7 しかし狗杖にあっさりにとらえられた拳句、「また裏切ったな」と
8 なじられお仕置きセックスへ。
9 その最中に、この屋敷の食べ物をお口にしたり、狗杖とたっぷりセ
10 ックスしたヒロインは、もはや人間とは別の存在だと明かす。
11 それでも家に帰りたいと嘆くヒロインに、現世はすでに三百年過
12 ぎ、ヒロインの居場所などどこにもないと嘲笑う。

13
14
15
16 【食事をするヒロインと、それを眺める狗杖】

17
18 SE:食器かちやかちや (食が進んでない感じをお願いします)

19
20 【9 ヒロインと向かい合って座っている】

21 狗杖「どうかした？」

22 あまり食が進んでいないけど……」

23
24 【ヒロイン「そろそろうちに帰りたい」】

25
26 狗杖「しょうがないなあ、みたいなため息】

27 またそれか……

28 最近の君は「家に帰りたい」ばかりだな。

29 ほかに求めることなんて、いくらでもあるだろう。

30 あの狭い家の——

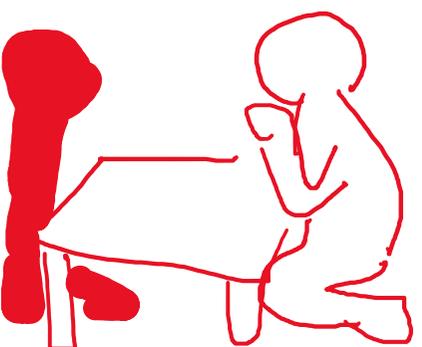
31 あのしがらみだらけの生活の——

32 一体何が恋しいんだい？

33 ここにいれば、君が望むものはなんだって

34 手に入るといふのに」

35



1
2
3 【ヒロイン「それでも帰りたい」】

4
5 【9】

6 狗杖「どうか、意地悪をしないで教えておくれ。

7 ここに何が足りないのか。

8 そんなに、元の家が好き？

9 家具が気に入ってた？

10 じゃあ……人？

11 そうですね、人の子は群れるのが好きだったか」

12
13 狗杖「なら…そうだな、何人か適当に連れてこようか。

14 どんなのが良いかな？

15 誰からも愛される生娘？

16 それとも、よく働く若い男？

17 元気な童も、悪くないな。

18 きつと君に、よく懐く。

19 何十人か集めて、ここに村を作ってもいい。

20 急に消えても、誰も探さないような存在が、

21 現世にはいくらでもいるからね」

22
23 【ふすまの向こうから、小間使いが語りかけてくる】

24
25 【9】

26 小間使い「お館様」

27
28 【9 少し振り向いて】

29 狗杖【「イラついて」チツ……なんだ」

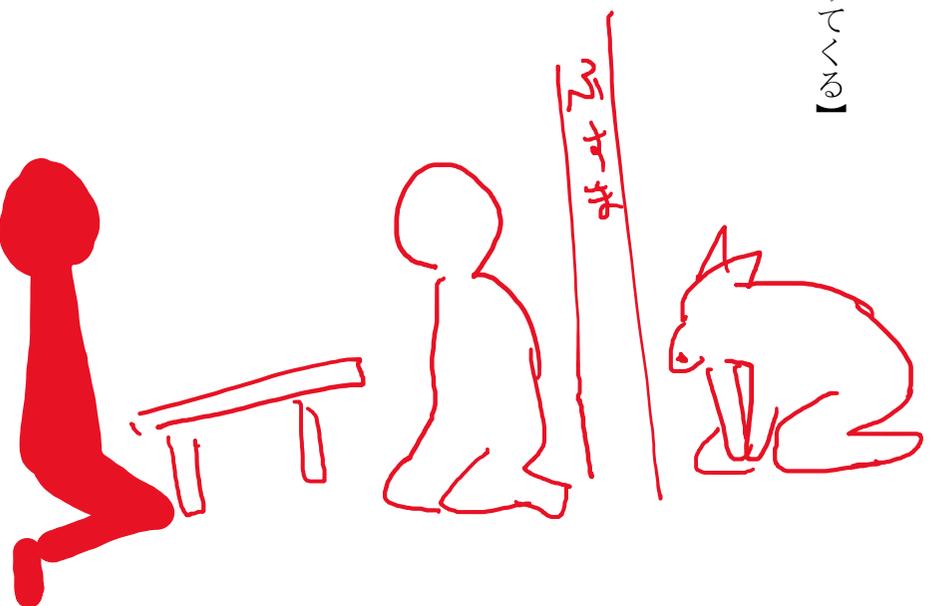
30
31 SE: ふすま開く

32
33 【怯えながら】

34 小間使い「申し訳ございません……

35 その侵入者が……」

36



1 【9 背後を向いて】
2 狗杖「侵入者……？」

3 ああ、あの白蛇か……
4 信仰を失った虫ケラの分際で、
5 まだここを返せと喚く元気があるとはな。
6 哀れに思つて慈悲をかけたのが間違いか……」

7
8 【9 ヒロインに向かって優しく】
9 狗杖「少し用事ができたので、席を外すよ。

10 何か欲しければ、
11 その小間使いに言うといい」

12
13 【3 耳元でささやきかける】
14 狗杖「それじゃ、いい子にしてて【額にキス】」

15
16 SE:遠ざかっていく足音

17 SE:ふすま閉じる

18
19 【ヒロインと小間使い二人、気まずい空間】

20
21 【9】

22 小間使い【「気まずさにおたつきながら」……ええと。

23 どうぞ食事の続きを……

24 えっ、もういらないんですか？

25 じゃ、じゃあ……食後に果物はいかがです？

26 お酒の方がいいですかね？

27 なんでも、おっしゃってください！

28 お嬢様の命令は、

29 お館様の命令ですから」

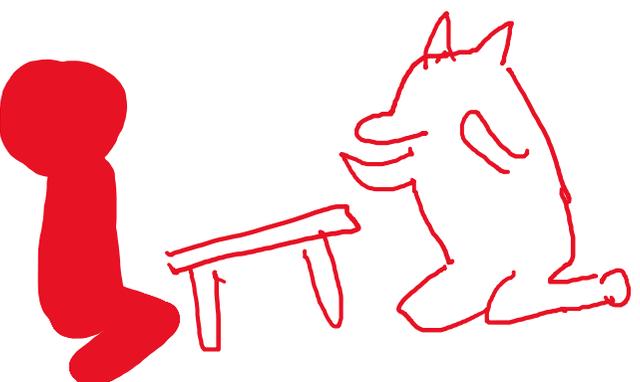
30
31 【ヒロイン「家に帰りたい」】

32
33 小間使い【「困り果てる」そ……それは……。

34 申し訳ございません、それだけは……。

35 【思いついて】かわりに、

36 庭でお散歩などはいかがでしょう！」



1 小間使い「現世では見られないような、
2 すばらしい景色ばかりですよ。
3 お館様も、白蛇の作った庭だけは、
4 気に入って残してあるんです」

5
6 【ヒロイン「白蛇って？」】

7
8 小間使い「白蛇というのは、
9 長く生きた蛇が化生となった存在で——」

10
11 【ヒロイン「？」顔】

12
13 小間使い「ええと……簡単に言うと、神様です。
14 祈る民がいなくなった神なので、
15 もう随分と弱ってますけど……
16 ああ、神は信仰を失うと、力を失うんです。
17 ここも元は白蛇の領域だったんですけど、
18 今はお館様のものに。
19 でも、今まで寄り付こうともしなかったのに、
20 急にどうしたんだらうな……
21 あ、心配しなくて大丈夫ですよ。
22 お館様がちゃんと追い払って、
23 この場所も、お嬢様も守ってくれますから」

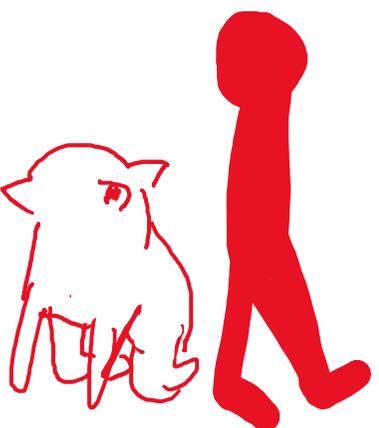
24
25 【ヒロイン、白蛇を追い払いに出かけたのなら、しばらく戻ってこ
26 ないのでは？ と思い立ち、逃げるなら今だと立ち上がる】

27
28 SE：立ち上がる

29
30 【B】

31 小間使い「あ、お散歩ですね？
32 どうぞ、こちらに。ご案内しますから
33 【慌てて】——お嬢様！？」

34
35
36



1 SE: 走る足音(畳)

2 SE: ふすま開ける

3 SE: 走る足音(板廊下)

4 ※ここから、二人分の足音※

5 【13 慌ててヒロインの後をついてくる】

6 小間使い「お、お嬢様、どこに行かれるのですか！

7 いけません、お館様のお許しもなく、

8 ここを出るなんて——！

9 後生ですから、どうか、思いとどまってください！

10 こんなことがお館様にしたら、

11 どんな目に合うか……っ

12 俺だけじゃない！ あなただって、ただでは——ッ」

13 【小間使い、背後から肩をつかまれて立ち止まる】

14 【13】

15 小間使い「——え？ お館様？

16 待って——

17 【断末魔】ぎゃあああああ！」

18 SE: 足音ストップ

19 【狗杖によって壁に叩きつけられ、絶命する小間使い】

20 【悲鳴を聞いて、思わず立ち止まるヒロイン】

21 SE: 壁に何かがぶつかる音

22 SE: 人が潰れる感じのやつお願いします

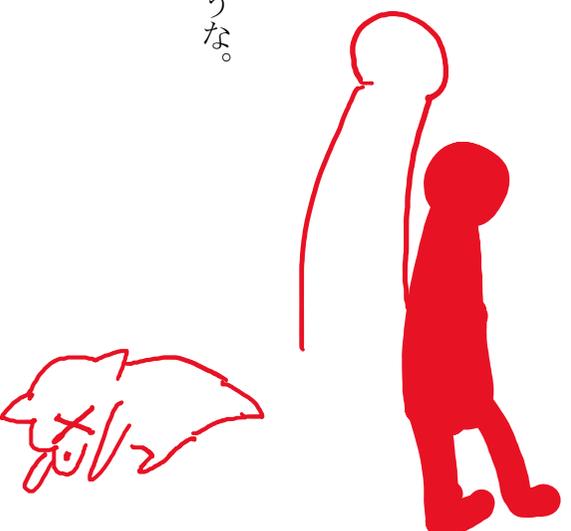
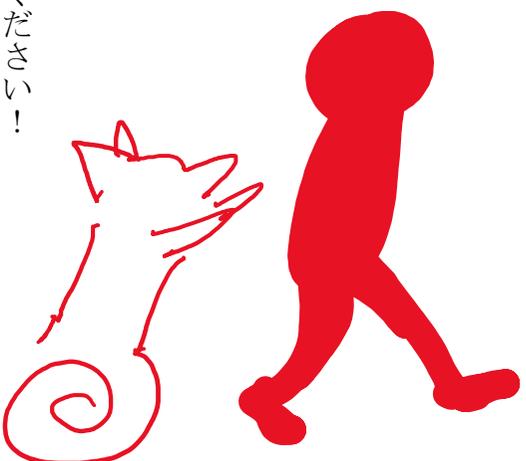
23 SE: ゆっくり歩み寄ってくる足音

24 【13】

25 狗杖「ああ……まったく。

26 わが眷属ながら、なんて役に立たない駄犬だろうな。

27 女の監視一つまともできないとは」



1
2 SE: 足音、ヒロインの真後ろでストップ

3 SE: 衣擦れ

4
5 【狗杖、ヒロインを背後から抱きすくめる】

6
7 【4】

8 狗杖「ほら、捕まえた♡」

9
10 狗杖【冷ややかに】やし……

11 そんなに急いで、一体どこに行く気だったのかな？

12 泣いて縋る小間使いを振り切って、わき目もふらずに」

13
14 狗杖「ああ……かわいそうに。

15 ふるえているね。

16 食われる直前の、ウサギみたいに体を硬直させて。

17 まるで、木彫りの犬だった時の、俺みたいに。

18 せつかく動く体があるのだから、

19 ちゃんと活用してはどうだ？

20 出口は目の前だ。

21 俺を振り払って、走って逃げてみるといい」

22
23 【3 耳元で】

24 狗杖【低く脅しつける】それとも……

25 血のおいが気になるか？

26 廊下のおいが気になるから、ここまでただよってくる、

27 錆び臭い死のおいが。

28 気になるのなら、振り向いてみる。

29 自分の目で確かめてみるといい」

30
31 【振り向けないヒロインを嘲笑う狗杖】

32
33
34
35
36

1 【4】 狗杖「侮る」っは……肝の小ささは、昔と同じか。

2 では、俺が教えてやろう。
3 自分の過ちを直視する勇氣もない、
4 臆病で薄情なお嬢さんに、
5 自分が何をしでかしたのか」

6
7
8 【7】 背後から耳元で」

9 狗杖「どうか、思いとどまってくださいと懇願した、
10 無力で無害なあの下郎は、死んでしまったようだ。
11 人形のように壁にたたきつけられ、
12 全身の骨が砕け、肉が爆ぜ、臓腑をまき散らしてね。
13 かわいそうになあ。
14 お前が逃げようとしたりしなければ、
15 アレもまだ生きていられたのに」

16
17 【7】

18 狗杖「後先考えぬ身勝手で、
19 罪のない下郎を死なせた気分はどうだ？
20 気にしていないか。
21 お前が今、気になってしようがないのは、
22 自分もあの下郎と同じ罰を
23 受けるのでは——ということだけだろう」

24
25 狗杖「そう怯えるなよ。

26 俺が、おまえにそんなことをするわけないだろう？

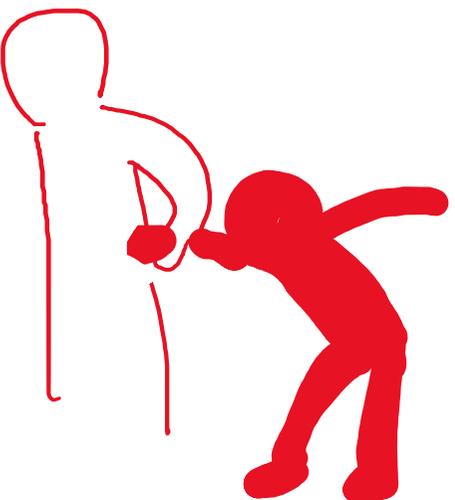
27 【怒りを滲ませ】お前の罪が、
28 死ぬくらいで償えるものか」

29
30 【2】 ヒロインの腕引っ張っる」

31 狗杖「来い、お前の仕置きはこっちだ」

32
33 SE：ヒロイン暴れる

34
35
36



1 【2↓3】

2 狗杖「チッ……暴れるな。」

3 【静かに脅す】手足をへし折られたいのか？」

4

5 SE: 暴れストップ

6 SE: 足音 (板廊下)

7 SE: ふすまがらつと開く

8 SE: あらかじめ敷いてあった布団に、ヒロインぶん投げ (どきっ)

9

10 【ヒロイン「どうしてこんなことを」】

11

12 【9 ヒロインを見下ろした状態】

13 狗杖【「バカにしたように」】どうして？

14 はは……！

15 そんなことも分からないのか？

16 家畜が逃げれば、お前も罰を与えるだろう。」

17

18 【ヒロイン「恩人だって言ったのに」】

19

20 狗杖「ああ、そうだ。

21 お前は俺の恩人だった。

22 だからお前が俺に従順だったなら、

23 永遠に幸せでいさせてやったのに……。

24 本当に、愚かだよ。

25 人の子はみんなそうだが、

26 お前はその中でも一等愚かだ」

27

28 狗杖「目をつむってやってもよかったのに、

29 お前はわざわざ自分の罪を暴き立て、

30 俺に怒りを思い出させた」

31

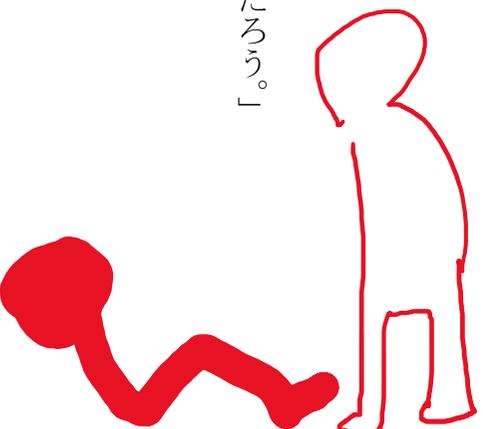
32 【ヒロイン「罪って何？」】

33

34

35

36



1 狗杖「思い出せないか？ 自分の罪が。
2 矮小（わいしよう）な人の身では、
3 贖（あがな）い切れないほどの罪だ。
4 罰を受けながらじつくりと思いつき出すといい。
5 おしゃべりは、終わりだ。
6 服を脱げ」

7
8 【ヒロイン、拒否】
9

10 【9】

11 狗杖「嫌……？
12 おもしろい。
13 まさか罪人の分際で、
14 拒絶が許されると思っているわけじゃないだろうな。
15 だが、思い出してみろ。
16 ここに来てから今日にいたるまで、
17 お前の拒絶が受け入れられたことが一度でもあったか？
18 俺はやり方を変えたただけだ。
19 お前が俺に逆らえないのは、
20 今までもこれからも変わらない。
21 さあ、もう一度命じてやろう」

22
23 SE：不穏な鈴の音
24

25 狗杖「服を脱げ。
26 誘うように、煽情的にな」
27

28 【ヒロイン、意志に反して服を脱ぐ】
29

30 SE：脱衣（浴衣）
31

32 【あやけり笑い】
33 狗杖「ははははは！
34 なんて無様！ なんて惨め！
35 お似合いだよ小娘。本当にお似合いだ」
36

1 狗杖「どうした？
2 そんなに驚いた顔をして。
3 手足が勝手に動いたことが、
4 そんなに不思議か？」
5

6 狗杖「ヨモツヘグイ——というんだよ。
7 異界の物を口にしたら、
8 異界の住人になってしまう」
9

10 【9】

11 狗杖「あほの子への憐れみ】お前は本当に、
12 無警戒に食ったよなあ。
13 俺が用意した飯を、酒を。
14 恩返しなどという言葉を信じて、
15 無邪気な顔で。
16 その上、精を注がれるのまで喜んで」
17

18 狗杖「おかげですっかり、
19 お前の血肉は人ならざる物へと変異した。
20 この、俺が支配する領域のものにな。
21 意味が分かるか？
22 ああ、いい。
23 説明してやる。
24 もはやお前は、俺の意のままに動く、
25 あの獣頭の小間使いと同じようなものということだ」
26

27 狗杖「ほら、脚を開け」
28

トラック⑦ 結末

SE: 狗杖が跪く

SE: しゃがむ衣擦れ

【1 至近距离】

狗杖【優しく】な？ 逆らえない。

俺が脱げと言ったら脱ぐしかないし、

踊れと言ったら踊るんだ。

これからはずっと、俺のおもちゃとして過ごすんだ。

お前が俺を、そう扱ったみたいに」

【1 少し離れて】

狗杖「ああ、いやー違うな。

俺はお前みたいに無責任じゃないからな。

ちゃんと、最後まで可愛がってやるさ。

途中で飽きて、放り出したりなんかしない。

絶対に。

老いも病もないここで、永遠に遊んでやろう」

SE: 入り口にあてがう水音

狗杖「ああ……少しも濡れていないな。

こんなに乾いて……

このまま奥まで押し込んだら、

さぞかしたいだろう……なあ！（挿入）」

狗杖【ならしてないのでキツそうに】んく……ふッ……

ほら、どうだ？

奥まで貫いてやったぞ。

痛いかな？ うん？

可哀想に。

俺の機嫌を損ねればどうなるか、

腹の奥にきちんと刻んでおくといい」



1
2 SE:ピストン開始 (80BPMくらいでねちねちと やや乾き気味の水音
3 感でお願いします)
4

5 【苦しげ吐息十秒程度】
6

7 【混乱しつつもとりあえず謝るヒロイン】
8

9 狗杖「何を謝っている？」

10 俺の許しもなく、現世に帰ろうとしたことか？

11 それとも、いまだに罪を思い出せない愚かさか？」
12
13
14

15 【1】

16 狗杖「…ははっ、だんだん濡れてきたぞ。

17 こんな状況でも興奮できるのか。

18 いいじゃないか、俺好みの浅ましさだ！」
19

20 狗杖「奥が好きか？ なら、好きなだけ突いてやる。

21 ほら、腰を上げろ。

22 いつも欲しがってる時みたいに」
23

24 SE:ピストン加速 (130BPMへ55)

25 【ヒロイン、悲鳴に近い喘ぎ】
26

27 狗杖【嘲笑】発情期の雌猫みたいに鳴いて、
28 そんなに気持ちいいのか」
29

30 【ヒロイン、(任意の親しい身内)を呼ぶ】
31

32 狗杖【高圧的に】俺以外の名を呼ぶな。
33

34 それが親でも兄弟でも、友人でもだ。
35

36 この先、お前が名を呼んでいいのは俺だけだ……！
俺だけ……俺だけだ……ッ！」

1 【狗杖、ぐっと体を伏せヒロインの耳元に唇を寄せる】

2
3 【7 耳元でささやく】

4 狗杖「どうして、俺を捨てたんだ……！」

5 俺はずっと、お前がまた来るのを待ってたのに。

6 お前が来てくれるなら、

7 あの木偶人形の中でもよかったのに……！」

8
9 【帰りたいと泣き始めるヒロイン】

10
11 SE:ピストンじりじり減速してストップ

12
13 【1】

14 狗杖【嘲笑】おまえ……

15 まだ自分に帰る場所があると思ってるのか？

16 よしよし、可哀想にな。

17 実に愛(う)い。

18 お前がここで過(ご)して、何日だったか。

19 七日(なのか)か、一月(ひとつき)か、

20 それとも百年(ももとせ)か」

21
22 狗杖「ああ、無理に思い出さなくていい。

23 大切なのは、

24 お前がここで浮かれ過(ご)していた間に、

25 現世ではもう二百年の時が過ぎてるといふことだ」

26
27 【ヒロイン「そんな……」】

28
29 狗杖「ははは！

30 驚いたか？

31 いい顔だ。

32 その絶望……！」

33 【嬉々として】最高に昂る……！」

34 夢を見ているようなものだと言っただろう？

35 長い夢を見て、目覚めたら翌朝だった——。

36 そういう夢も確かにあるな」

1 【1】

2 狗杖「だが、逆はどうだ？

3 夢の中ではほんの一瞬過ぎただけなのに、

4 目覚めたらもう一晩経っている。

5 そういう経験が、ありはしなかったか？」

6 狗杖「お前が勝手に思い込んだんだ。

7 自分の都合のいいように。

8 ここで十年過ぎても、

9 お前が歳をとらないのは本当だ。

10 だが——」

11 【3】

12 狗杖「あちらの世界にはもう、

13 お前を覚えている者など誰もいない。

14 親も、友も、誰もかれもが死に果てて、

15 家すらとつくに朽ちている。

16 もうどこにも、お前が逃げる場所はないんだよ」

17 【泣き出すヒロイン】

18 【3 耳を舐めたり噛んだりしつつ】

19 狗杖【急に優しく】ん、ちゅ……はむ……れる……

20 ああ、泣くな泣くな。

21 そう大した話じゃないだろう。

22 どんな人間だって、ちゅ……じゅる……

23 百年（ひやくねん）も経てば、

24 土に帰るんだ……。

25 いずれ来る別れが、

26 少し早まっただけのこと【耳舐めここまで】

27 【1】

28 狗杖「ああ、参ったな……そうメソメソとされると……

29 【興奮して】手加減してやれなくなる……は、ああッ……！」

SE:ピストン再開 (100BPM↗55)

1 狗杖「お前のことは、俺が永遠に可愛がってやる。
2 お前の望む季節にしてやるし、
3 いろんな着物でも着せてやる。
4 だからもう、あちらのことは思い出すな。
5 いいな？
6 これからは、俺のことだけを思って、
7 俺に懐いて過ごせばいい。
8 できるだろう？」

12 【ヒロイン、狗杖に命じられるままに記憶を失っていく】

14 【1 ついばむようにキスしつつ】

15 狗杖【満足げに】いい子だ……ちゅ、ちゅ……
16 そのまま何も考えず……ちゅ、
17 尽きることはない快樂に、
18 身を委ねて溶けてしまえ。
19 ん……ちゅ、
20 砂を噛むような永遠も、
21 お前さえいれば……ちゅ……楽しめる……」

SE:ピストン加速 (180BPM↗55)

25 【3 耳元で】

26 狗杖【限界まで甘く】気持ちいいか？
27 俺もだ。
28 ああ、もっと声を聞かせてくれ。
29 俺の名前を呼んで、俺だけにすがってくれ」

31 狗杖「ああ……締まるな……
32 限界か？ もう耐えられない？
33 ああ、いいぞ……好きだけイけ。
34 さつきから俺を欲しがってヒクヒクしてる、
35 お前の子壺(こつぼ)に、注いでやるから」
36

1 狗杖「ほら、イケ…イケ！【射精】」

2
3 SE:ピストン終了

4
5 【気だるげな吐息をしつつ、ヒロインの額や耳に何度もキスをする
6 狗杖】

7
8 狗杖「深いため息」……おかえり、俺の可愛い子」

9
10

1 トラック⑧ めでたしめでたし

2 ヒロインが捕らわれてから幾度目かの夜。

3 ふと、自分の過去を語る狗杖。

4 自分は確かに神社にいたが、別に奉られていたわけではなく、封
5 印されていたのだと語る。

6 気の遠くなるほど長い時間を、人間への恨みを募らせながら過ご
7 していた。

8 しかしある日、幼いヒロインがうっかり犬の木像にヒビを入れた
9 日から、徐々に封印は解け、こうして力を取り戻した。

10 ヒロインがぱたりと来なくなったことに、苛立ちを覚え、二度と
11 自分から逃げられないように今回の神隠しを決行した。

12 下等な人間のしたことだから許すよ。

13 これからはヒーローの眷属なんだから、もうそんなこともできな
14 いし。みたいな感じ。

15 人間の寿命を超えた悠久の時間、ヒーローが減じるまでずっと
16 こうして暮らそうね、と満足げに語り、終了。

17 全体的に、優しい感じでお願いしたいです。

18
19
20
21 【ヒロインとベッドに並んで横たわっている狗杖】

22
23
24 【3 隣に寝転がって、天井を見ながら】

25 狗杖「——昔話をしてやろうか」

26
27 【不思議そうなヒロイン】

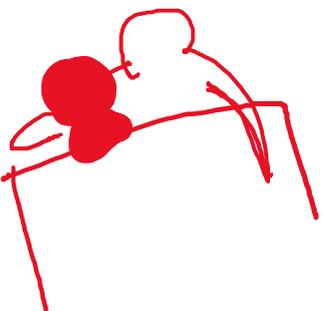
28
29 【1】

30 狗杖「なんだ、その顔は。

31 ちよっとした気まぐれだ。

32 たまには俺も、そういう気分になる日がある」

33
34
35



【1】

3 狗杖「昔々、あるところに小さな女の子がいた。

4 無鉄砲で、怖いもの知らずで、

5 罰当たりなその女の子は、

6 ある日、退屈しのぎに古びた神社に忍び込んだ」

8 狗杖「管理者も消え、朽ちたお堂の奥で、

9 狗の木偶を見つけたんだ。

10 ああ、木偶というのは、木で作った像のこと。

11 大きさは……そうだな、

12 子供が抱きしめられる程度の大きさだった。

13 子犬くらいの大きさと言ったらいいか……

14 【思い出し笑い】彼女はそれを、

15 いたく気に入ったようだった。

16 ろくに信仰心を持たない子供は、

17 お堂から木偶を持ち去ると、

18 ヒミツの隠れ家に仕舞い込んだんだ。

19 その像に封印されているのが、

20 人間を殺して食う、

21 恐ろしい鬼とも知らずに」

23 狗杖「それから何日も何日も、彼女は隠れ家に通った。

24 自分が神社から盗み出した宝物で遊ぶために、

25 短い足を一生懸命かして。

26 もみじみしたいに小さな手で木偶を抱き上げては、

27 いろんな遊びをした」

29 狗杖【愛し気に】俺を本物の犬に見立てて飼ってみたい、

30 時には夫婦（めおと）という設定で、暮らしてみたり。

31 かくれんぼもやったなあ。

32 他愛のない、子供らしい遊びばかりだったよ」

1 狗杖「だがある日、
2 彼女はうっかり木遇を落としてしまった。
3 木遇の首に走ったキレツを見て、
4 彼女のリングのようだった頬が青ざめて——」
5

6 狗杖「——多分、そこでやっと思いつたんだろ。うな。
7 自分が遊んでいた物が、盗品であることに。
8 彼女は幼い表情を引きつらせると、
9 木遇を置き去りにして、
10 隠れ家から出て行った」
11

12 狗杖【苦々しく】そして、一度と戻らなかった」
13
14

15 狗杖「鬼は何年も何年も、彼女が戻ってくるのを待った。
16 木像にヒビが入ったおかげで、封印が綻（ほころ）び、
17 そのうちに力を完全に取り戻した後も、
18 いつか彼女が戻ってくるんじゃないかと、
19 ずっとそこで待っていた」
20

21 狗杖「しかし、しばらくして気がついたんだ。
22 人間には寿命がある。
23 そうでなくても、もろい生き物だ。
24 もしかすると、
25 あの女の子は死んでしまったのかもしれない」
26

27 狗杖「そう思った鬼は、いてもたってもいられなくなって、
28 彼女を探すことにした。
29 そして彼女の住処を突き止めた時、
30 鬼は自分が捨てられたことを、
31 やっと認めた。
32 鬼のことをすっかりと忘れていた彼女を目の当たりにして、
33 認めざるを得なくなった」
34
35
36

1 狗杖「鬼は怒った。
2 胸が燃えているのではないかというほど激しい怒りだ。
3 そのまま八つ裂きにしてしまおうかとも思ったけど、
4 鬼にはそれよりも、もっとしたいことがあった」
5

6 狗杖「もう二度と、彼女から離れたくない。

7 だから鬼は、彼女を自分の眷属にしようともくろんだ。

8 言葉巧みに誘い出し、

9 機嫌を取って自分の領域に引き留めて、

10 人の体が、人外に変わるまで、

11 じっくりと時間をかけた。

12 これで彼女は、鬼が死ぬまでずっと側にいるしかない」
13

14 狗杖「鬼は満足して、屋敷で彼女と永遠に暮らすことに決めた。
15 時間の流れが意味を持たない、この小さな箱庭の中で。
16 めでたしめでたし……」
17

18 【ヒロイン「めでたしかな？」】
19

20 狗杖「満足げなため息」うん……？ どうだろうな。

21 すくなくとも、俺はめでたしと思ってる。

22 これでやっと、お前は俺のものだ……おやすみ」
23

24 【ヒロインの額にキス】
25

26 SE:不穏な鈴の音
27

28
29 おしま